



東北大学

東北大学 G2SD 映画上映会 + 討議

「不可視の隣人たち」(第11回)



GSICS
TOHOKU UNIVERSITY

はじめての おもてなし

WELCOME TO
GERMANY

2017年
バイエルン映画賞
作品賞/プロデューサー賞受賞



2017年
ドイツ・アカデミー賞
観客賞受賞

ひとりぼっちの難民の青年ディアロが、壊れかけた家族のもとにやって来た。
ありえない出会いが教えてくれた、人生にとって大切なコトとは――



入場
無料

異国からの来客に、

家族が驚いた。困った。

でも、笑った。



©2016 WIEDEMANN & BERG FILM GMBH & CO. KG /
SENTANA FILMPRODUKTION GMBH / SEVENPICTURES
FILM GMBH

日時：2020年2月1日(土)

第1部 13:30～ 映画上映

第2部 15:40～ 解説・討議
(17:10 終了予定)

講師：藤田恭子

(東北大学大学院国際文化研究科教授)

解説「ドイツにおける難民・移民受け入れ
と社会統合」

場所：東北大学川内北キャンパス

マルチメディア教育研究棟 6階ホール

主催：東北大学大学院国際文化研究科 G2SDプログラム

共催：東北大学災害科学・安全学国際共同大学院プログラム

G2SD Graduate Program in
Global Governance &
Sustainable Development

お問合せ movietohoku@gmail.com

東北大学大学院国際文化研究科 G2SD プログラム
映画上映会+討議

連続プロジェクト **不可視の隣人たち**

毎日の街角で、新聞で、テレビニュースでいく度も目に触れているのに、実際には目に見えてこない“隣人たち”。エスニック・マイノリティーであることも多いその“隣人たち”については、わずかな情報しか得られないことが多い。また時には曖昧で歪曲されたイメージだけが独り歩きしていることもある。一方的に与えられる情報によって固定させられたイメージに惑わされずに、この“隣人たち”の視点から世界とわれわれ自身を捉え直す、そこから始めてみてはどうだろう。そのような自由闊達な視線を獲得する試みとして、ドイツにおける難民受け入れをテーマとする劇映画の上映を企画しました。



あらすじ：ミュンヘン郊外に住むハルトマン一家は経済的には比較的恵まれた市民生活を送っているが、家族のつながりは失われつつあり崩壊寸前。孤独に悩む母アンゲリカは難民の受け入れを提案し、天涯孤独なナイジェリア難民の青年を受け入れることになる。でもそこから、さまざまな問題が目に見えるようになりはじめて…。

2015年9月のメルケル首相の決断もあり、100万人超の難民を受け入れているドイツの社会派コメディ。ドイツで観客動員400万人を超えた2016年の大ヒット作。

監督/脚本：サイモン・バーホーベン

出演：センタ・バーガー、ライナー・ラウターバハ、フロリアン・ダーヴィット・フィッツ、パリーナ・ロジンスキ、エリヤス・エンバレク、エリック・カボンゴ他

(2016年、ドイツ語、116分)

2017年バイエルン映画賞(作品賞、7'ロケユーザー賞)

2017年ドイツ・アカデミー賞(観客賞)



「決めたわ、難民を一人受け入れるの。」
母の突然の宣言に家族は大混乱。



©2016 WIEDEMANN & BERG FILM GMBH & CO. KG / SENTANA FILMPRODUKTION GMBH / SEVENPICTURES FILM GMBH

Multimedia Research and Education Complex
マルチメディア教育研究棟



東北大学川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟
(仙台市営地下鉄東西線・川内駅・南2出口すぐ)